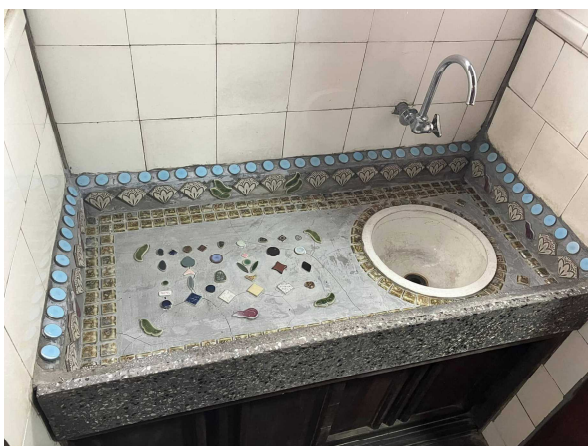


# 美しさと使いやすさの融合

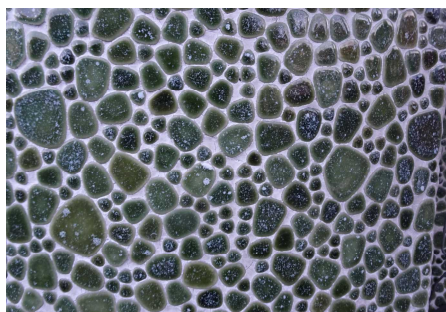
## —タイルで生活に彩りを—

### ■タイルとは

タイルとは、建築物の仕上げ材として内外の床、壁や床に用いる平板状の焼きもののことをいう。古くはエジプトやバビロニアなどの王宮や宮殿の床材に使われるなど、世界各地で広く使われてきた。日本に入ってきたのは、飛鳥時代に瓦博士が伝えた瓦の製造技術が始まりとされる。1922(大正11)年全国のタイル業者が「タイル」という言葉に統一し、工業製品として広く利用されるようになる。



タイルで装飾された洗面所 (撮影場所：京都府旧第二友栄楼)



タバコ屋のカウンター下の装飾タイル  
(撮影場所：名古屋市中村区)

### ■台所、トイレ、浴室は清潔に

大正期は、コレラ・ペスト、スペイン風邪の流行、関東大震災で被災した建物の再建は、庶民の生活や住宅においても大きな変化をもたらした。明るく、清潔で掃除がしやすい、腐食に強い、装飾性が高いなどの理由から、トイレ、台所のシンク、浴槽などをタイル張りで飾り付けられたものが増えてくる。現在は、システムキッチン・ユニットバスが主流となっているが、空間作りのアクセントとともにレトロ感を楽しめるとの理由で、水回りにタイルを使用することが再ブームとなっている。

### ■タバコ屋カウンターがおしゃれに

大正、昭和の商店街には必ずといってよいほどあったタバコ屋。そういった専門的店舗も少なくなり、コンビニエンスストアでの購入へと変化している。そのため、タバコ屋のカウンター自体も町中で見かけることはほとんどなくなってしまった。このタバコ屋の多くに見られたのが、ガラスケースの周囲を飾るタイルの装飾である。モザイクタイルや「たばこ」の文字を入れたタイル、少し高級感が漂うマジョリカタイルなど、趣向を凝らしたデザインを施すタバコ屋は、ほぼ姿を消したのである。

### ■銭湯の壁は芸術作品

大正、昭和期は、多くの人々が銭湯を利用していた。清潔感を求められることから、木製よりも汚れが付きづらく清掃が容易なタイルを採用



銭湯の壁面を飾るモザイク絵 出典：『にっぽんのかわいいタイル』



現在も営業し、カウンター下にタイル装飾のあるタバコ屋 (撮影場所：名古屋市中村区)

用する銭湯が増えてきた。床、洗面台のみではなく、銭湯に独特な壁の絵もモザイクタイルで飾られることも増えてきた。東郷青児風の女性、風景などコンピューターがない時代にパズルを施すように繊細なデザインを描いていったタイル職人の技は、まさしく芸術家の作品といえよう。

(出典：『日本のタイル100年』)

(朝井佐智子)